

平成 22 年度
全国学力・学習状況調査（抽出調査）
調 査 結 果 報 告

平成 23 年 1 月

川 西 市 教 育 委 員 会

目 次

平成 22 年度全国学力・学習状況調査結果（抽出調査）の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査対象児童・生徒
- (3) 調査内容①実施教科等、②実施日、③実施時間、④実施人数
- (4) 調査結果の見方
- (5) 学力調査結果の概要【小学校国語】【小学校算数】
【中学校国語】【中学校数学】

平成 22 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。(平成 22 年度実施要領より)

(2) 調査対象児童・生徒

川西市立小学校のうち、抽出調査対象校第 6 学年児童 (5 校、395 人)

川西市立中学校のうち、抽出調査対象校第 3 学年生徒 (2 校、323 人)

(3) 調査内容

①実施教科等

《教科に関する調査》

- ・ 小学校 6 年生：国語、算数
「A：主として知識に関する問題」と「B：主として活用に関する問題」
- ・ 中学校 3 年生：国語、数学
「A：主として知識に関する問題」と「B：主として活用に関する問題」

《質問紙調査》

- ・ 児童生徒に対する調査 (学習意欲、学習方法、生活の諸側面等に関する調査等)
- ・ 学校に対する調査 (指導方法、人的・物的な教育条件等)

②実施日 平成 22 年 4 月 20 日 (火)

③実施時間

《小学校調査》(ア)教科に関する調査は、国語・算数の「主として知識に関する問題」は合わせて 1 単位時間、国語・算数の「主として活用に関する問題」はそれぞれ 1 単位時間とすること。

(イ)児童質問紙調査は、各学校の状況に応じて適切に実施。

《中学校調査》(ア)教科に関する調査は、国語・算数の「主として知識に関する問題」は、それぞれ 1 単位時間、国語・算数の「主として活用に関する問題」もそれぞれ 1 単位時間とすること。

(イ)生徒質問紙調査は、各学校の状況に応じて適切に実施。

④実施人数

| | | | |
|----------|-------|-------|-------|
| 小学校6年生児童 | 国語A・B | 算数A・B | 児童質問紙 |
| | 395人 | 395人 | 395人 |
| 中学校3年生生徒 | 国語A・B | 数学A・B | 生徒質問紙 |
| | 323人 | 323人 | 323人 |

(4) 調査結果の見方

- * ここでいう「抽出校」とは、本年度、抽出調査対象となった本市小中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。
- * ここでいう「全国平均」とは、上記同様に、本年度、抽出調査対象となった全国の小中学校（公立学校）在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均をさします。
- * 分析の際の基準の考え方
本市児童生徒と全国平均との比較は、次を基準としています。

+5.1%以上（上回る）、±5.0%（同程度）、-5.1%以下（下回る）

(5) 学力調査結果の概要

【小学校国語】

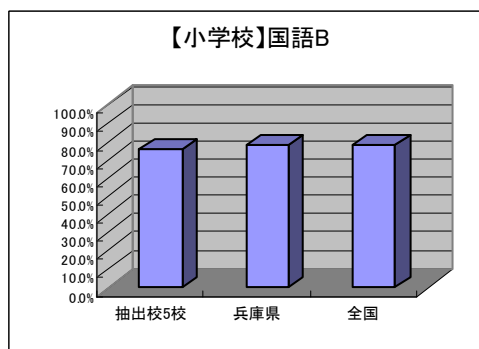
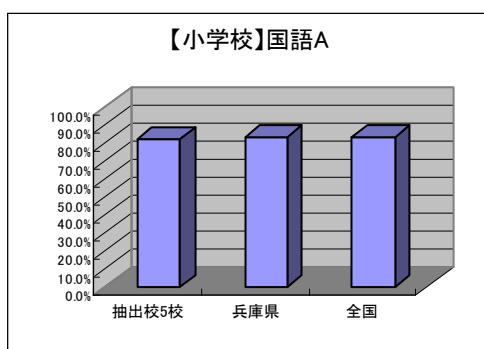
○ 調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身につけているかどうかを見る問題

国語B－基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題

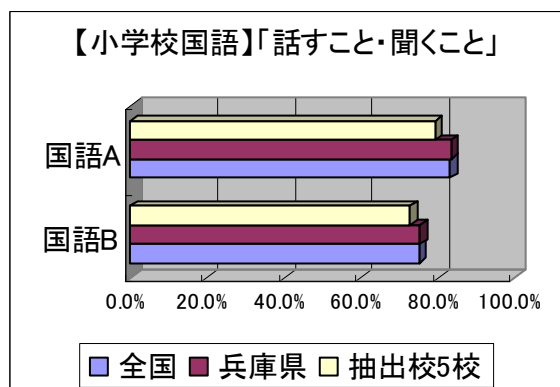
○ 調査結果

| 小学校 (全国公立平均) | 国語A | 国語B |
|-----------------|-------|-------|
| | 83.3% | 77.8% |



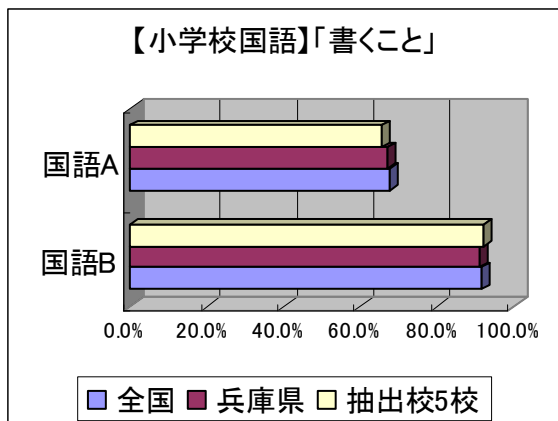
○ 小学校国語A（知識）、小学校国語B（活用）ともに、全国平均正答率と同程度である。

○ 領域別正答率

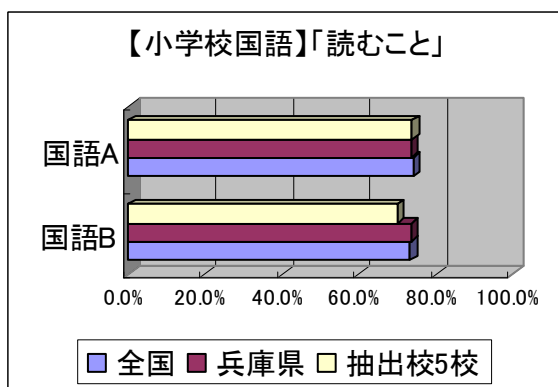


◇ (A) 聞き手が理解しやすいように、話の全体の構成を工夫することは、多くの児童が理解していました。

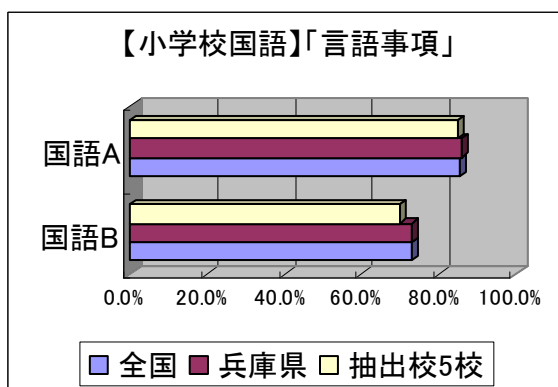
◆ (B) 目的や意図に応じて、聞き手を引きつけるように話すことには課題がありました。



- ◇ (A) 自分の考えが明確になるように、文章全体の構成を工夫することは、多くの児童が理解していました。
- ◆ (A) 文と文の意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くことには課題がありました。



- ◇ (A) 説明的な文章の内容を的確に押さえながら読むことは、多くの児童が理解していました。
- ◆ (B) 物語を読んで思ったことや考えたことを、理由を明確にまとめて書くことには課題がありました。



- ◇ (A) 五年生までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることは、多くの児童が理解していました。

※ ◇ : 相当数の児童ができている点 ◆ : 課題のある点 () 内の記号は、A : 国語A B : 国語B

【小学校算数】

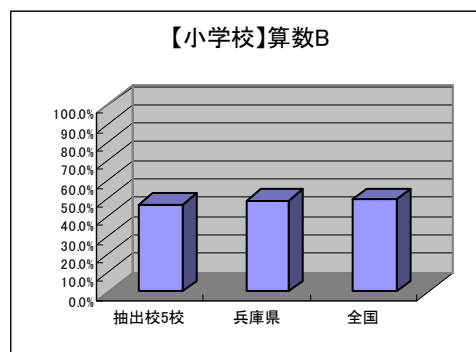
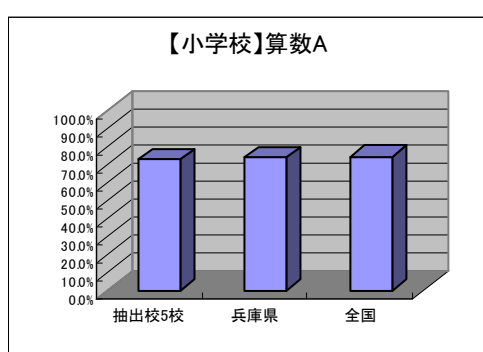
○ 調査問題の趣旨・内容

算数A－数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身についているかどうかを見る問題

算数B－数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題

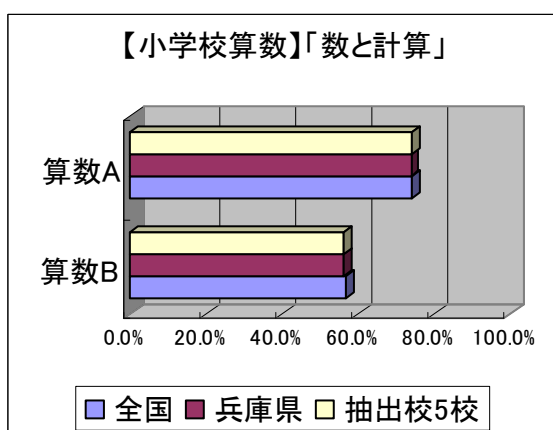
○ 調査結果

| | | |
|-----------------|-------|-------|
| 小学校 (全国公立平均) | 算数A | 算数B |
| | 74.2% | 49.3% |



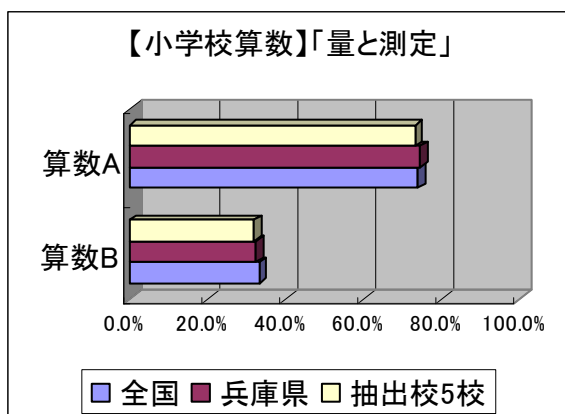
○ 小学校算数A（知識）、小学校算数B（活用）ともに、全国平均正答率と同程度である。

○ 領域別正答率

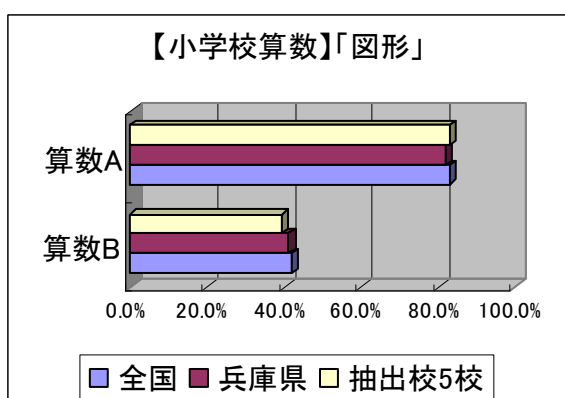


◇ (A) 繰り下がりのある減法の計算や除法の計算をすることは、多くの児童が理解していました。

◆ (A) 数量を等分したときの1つ分を分数で表すことができることについての理解には、課題がありました。

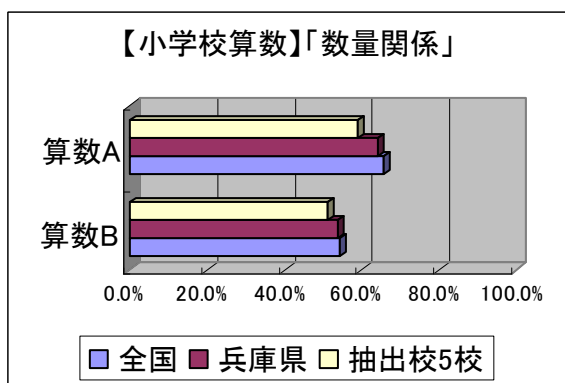


◆ (A・B) 台形の面積の求め方を理解し面積を求めることや、平行四辺形に対してなされた説明を解釈し、それを台形に適用して、説明を記述することには課題がありました。



◇ (A) 二等辺三角形の定義や性質については、多くの児童が理解していました。

◆ (B) 示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その判断の理由を記述することには課題がありました。



◆ (B) 割合が一定の場面で、比較量が最も大きくなるときの基準量を判断し、その理由を記述することには課題がありました。

設問内容

割引券を使うと、値引きされる金額が最も大きくなる商品を選び、そのわけを書く

※ ◇ : 相当数の児童ができている点 ◆ : 課題のある点 () 内の記号は、A : 算数A B : 算数B

【中学校国語】

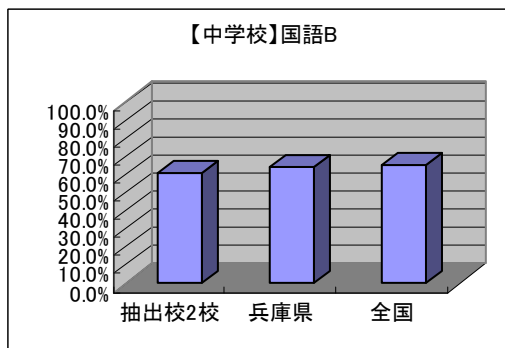
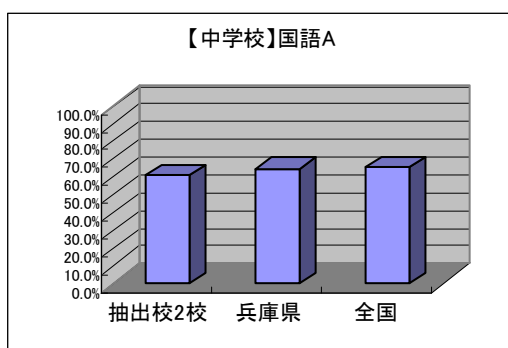
調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身につけているかどうかを見る問題

国語B－基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題

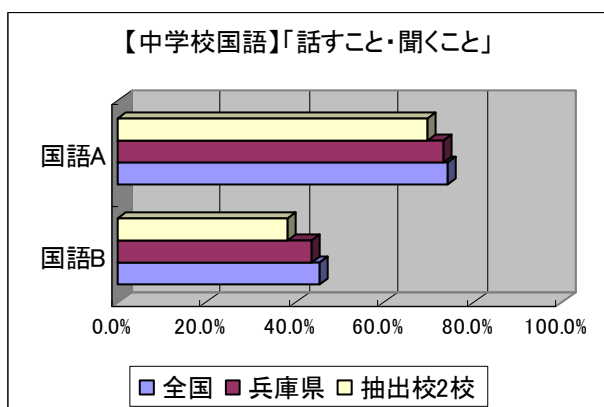
○ 調査結果

| | | |
|-----------------|-------|-------|
| 中学校 (全国公立平均) | 国語A | 国語B |
| | 75.1% | 65.3% |



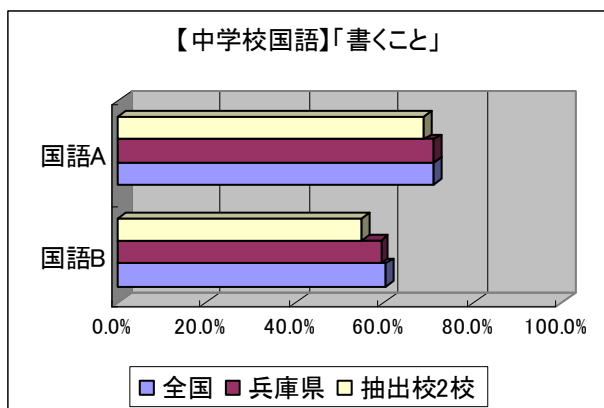
○ 中学校国語A（知識）、中学校国語B（活用）ともに、全国平均正答率と同程度である。

○ 領域別正答率

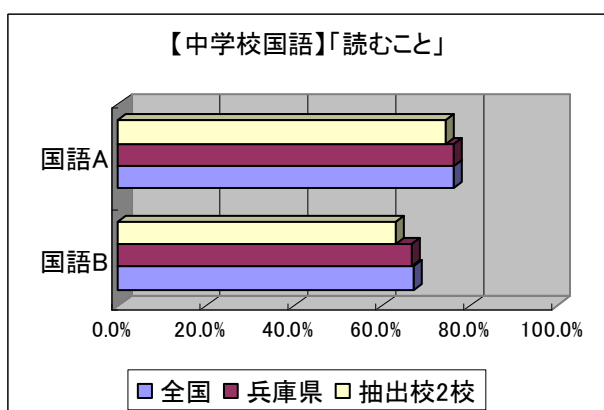


◇（A）目的に沿った話し合いになるような質問や効果的に展開させる発言の役割については、多くの生徒が理解していました。

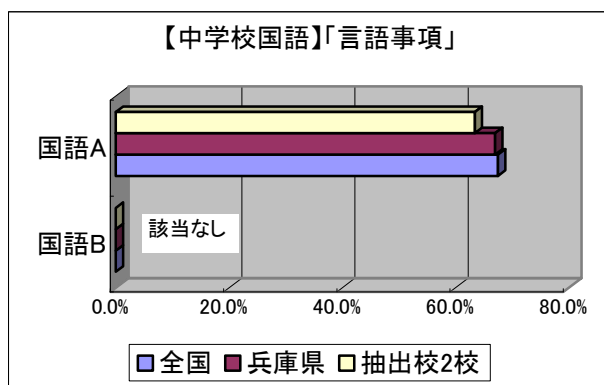
◆（B）資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明することには課題がありました。



- ◇ (A) 書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることについては、多くの生徒が理解していました。
- ◆ (A) 記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くことには課題がありました。



- ◇ (A) 文脈の中における語句の意味については、多くの生徒が理解していました。
- ◆ (B) 表現の仕方について注意して読み、内容について理解することには課題がありました。



- ◇ (A) 文脈に即して、漢字を正しく読みだり書いたりすることについては、多くの生徒が理解していました。

※ ◇ : 相当数の生徒ができている点 ◆ : 課題のある点 () 内の記号は、A : 国語A B : 国語B

【中学校数学】

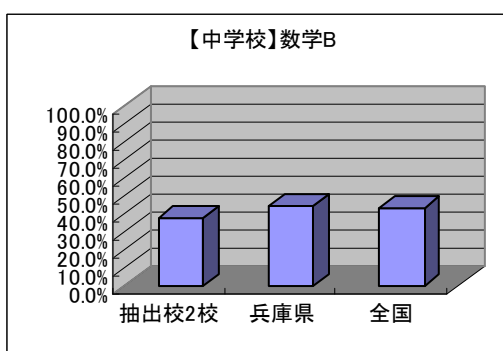
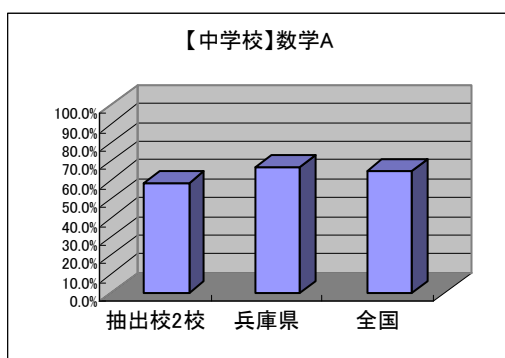
○ 調査問題の趣旨・内容

数学A－数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかを見る問題

数学B－数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題

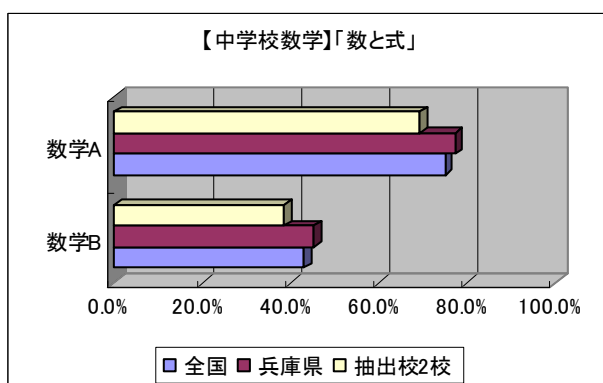
○ 調査結果

| 中学校 (全国公立平均) | 数学A | 数学B |
|-----------------|-------|-------|
| | 64.6% | 43.3% |



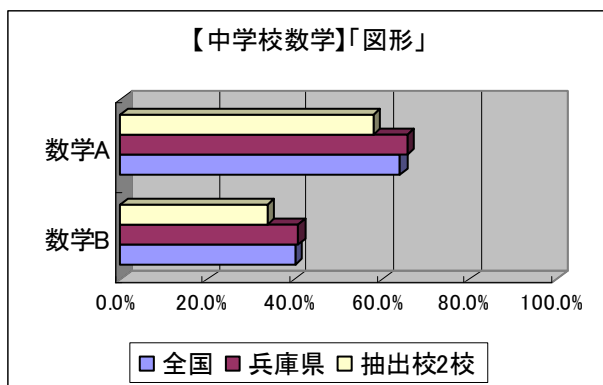
○ 中学校数学A（知識）、中学校数学B（活用）ともに、全国平均正答率を下回っている。

○ 領域別正答率



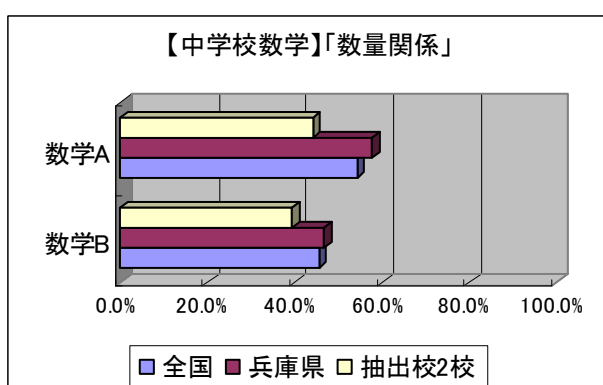
◇ (A) 分数の加法の計算や、文字に代入して式の値を求めることは、多くの生徒が理解していました。

◆ (A) 筋道を立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することには、課題がありました。



◇(A) 垂線の作図の手順は、多くの生徒が理解していました。

◆(A) 円柱の体積の求め方を理解し、体積を求めることには、課題がありました。



◇(A) 比例の関係を表す表の特徴を捉えて、Xの値に対応するYの値を求めることは、多くの生徒が理解していました。

◆(B) 具体的な事象における一次関数の関係を式で表すことには、課題がありました。

※ ◇：相当数の生徒ができている点 ◆：課題のある点 () 内の記号は、A：数学A B：数学B

